



平出 隼仁 議員

人口増への新たな手立ては

「雇用の確保」を進める

質問・・・人口増への具体的な取り組みは。

町長・・・リーディングプロジェクトに謳っている、若者世代へ配慮した新築住宅への補助金や、移住者を招き入れやすいよう空き家バンクのシステムを取り入れた。また結婚相談所主催でイベントを企画、1組でも多くの成婚を促し定住できるよう努めている。

町の課題でもある荒廃農地を減らすことが同時にできるように、新規就農者支援・受入れ体制の整備を進める。住宅・農地・研修・機械の4点をパッケージにして、農業を始めやすい環境を整え、就農までの期間を支援する。

質問・・・取り組みの成果は。

町長・・・平成22年度の婚姻は35件、内結婚相談所利用者は1件でした。本年度は結婚相談所から3組の成婚を目標に努力していく。また、昨年度の新築住宅補助金の利用は24件で、町内業者が元請であつたのは6件、本年度は20件の利用を目標にしている。

新規就農については、昨年度実績7組・13人で、今年度は10組の就農を目標にしている。

質問・・・人口増への今後の施策は。

町長・・・雇用の確保に力を入れたいと考えている。誘致に依拠してもらえる可能性のある会社や2社ある他、清泉荘の改築や小規模多機能施設の建設(本郷地区)により、介護関係の雇用を拡大する。

質問・・・最終的に富士見町の人口をどれほどまで増やすことが望ましいと考えているか。

町長・・・現状維持の15,300人を目標としている。

口その他の質問

*リーディングプロジェクトについて

*自然エネルギーの利用について

*町内滞在者・来町者への対応について



宮下 伸悟 議員

町の特性に即した

節電対策の提起を

節電対策本部を設置し

今夏から取り組む

質問・・・浜岡原発が全炉停止し、今夏の電力供給への懸念が高まっている。標高や緯度、気候など町の特性に即した具体的な節電対策を提起し、PRを行っていく考えは。

町長・・・町でも節電対策に取り組まなければいけないというのは行政としても共通の認識。節電対策本部を今週中に立ち上げ、当町に合った節電方法を分析検討、町民の皆さんに提案していく。7月15日発行の広報に掲載し周知を図りながら、議会とも議論しPRの強化を図っていききたい。

質問・・・東日本大震災の発生で防災機運が高まっている。災害予

○議会では6月から9月の間、クールビズを実施しています

防計画にある既存建築物の耐震改修促進施策において、その実効性を高めるためには耐震化率の現状把握が不可欠。耐震改修が必要な一般木造住宅はどのくらいあり、それに対し無料耐震診断は累計で何件実施されているか。

町長・・・現在の木造住宅戸数は1,280戸。全部調べたわけではないが、そのうち要対策と考えられるのが900戸。耐震診断は700戸近く実施されているが、改修が行われたのは14戸に留まっている。

先の広域連合防災講演会でも、富士見町で今後栄村と同等の地震が発生する可能性は99%と指摘されている。現在の耐震化率は問題と認識しており、何とか啓蒙していきたい。

質問・・・補助予算枠を使い切つて改修済み14件なのか。工事を決断いただくに至らず、この件数なのか。

建設課長・・・精密診断と費用見積もりを経て、耐震改修工事を行い、補助金を交付したのが14件という結果である。

口その他の質問

*定住促進事業について